

和泉熊野神社のクロマツ



- 〔指定年月日〕平成二年一月一四日  
〔種別〕天然記念物（植物）  
〔名称〕和泉熊野神社のクロマツ  
〔点数〕一本  
〔所有者等〕和泉熊野神社  
〔所在地等〕和泉三―二一―二九

## 和泉熊野神社のクロマツ

本殿南側の玉垣内に立つ和泉熊野神社の御神木である。樹高約一七m、目通り三・一m、根元回り六・三m、樹齢はおよそ三五〇年位と推定されている。

幹はまっすぐに伸び、少し湾曲し扁平なところもある。樹冠は広く、枝葉の密度や色合は良く活力は旺盛である。また樹形にもすぐれ、クロマツ特有の荒々しい野性味あふれたこのマツは、昭和六一年度（一九八六）に指定された尾崎熊野神社のクロマツと比べても遜色がない。植生環境もよく、周囲は空地で黒ボク土壌で軟らかく、人の踏圧の心配はない。

このクロマツには三代將軍徳川家光が狩猟の途中、当地で休息した時にお手植したとの言い伝えがある。これは区内に伝承する家光伝説の一つであり、神社に残存する寛永一六年（一六三九）銘の棟札との時代的同一性が興味をひく。

めぐまれた保存状態にあって、樹勢も優れ都内有数のクロマツの巨樹として貴重である。

### 【文化財所在地】

